

第29回「ハートミーティング」意見交換の内容について

京都市職員獣医師会（職獣会）

★参加メンバーからの主な声

- 獣医師の仕事は、動物愛護、食品衛生、感染症対策など多岐に及んでいる。
- 動物愛護の観点から行っている「まちねこ活動支援事業」は、野良猫を家庭動物相談所での避妊又は去勢手術後、住民の皆さんが地域で管理することを支援するもので、住民の皆さん、ボランティア、行政が一体となって取り組んでいる。
- 「まちねこ活動支援事業」によって地域住民の皆さん同士の繋がりも一層強まった。また、糞尿による悪臭や、エサから出るゴミ、それに寄ってくるカラス、猫の鳴き声による騒音など、地域の生活環境を取巻く様々な問題の改善にも繋がっており、感謝の声も頂いていることから、我々職員はやりがいを感じている。
- 食品衛生、とりわけ安心安全な食肉の確保については、と畜検査や食品検査、流通先での衛生管理指導など、生産者から消費者の口に入るまで、様々な取組による衛生管理体制の徹底を図っている。今後も市民の皆さんが過剰に反応されることのないよう、正確な情報発信に努めたい。
- 新型インフルエンザや高病原性鳥インフルエンザなど、感染症対策については、まず侵入させないこと、そして迅速な検査により原因を早くつきとめることが重要である。
- 検査担当職員は、常に新しい検査方法について習熟するよう努めている。また、市民の方と直接対応することはないが、検査の際には、その先にいらっしゃる市民の方のことを思いながら行っている。

★市長からのコメント

- 「まちなこ活動支援事業」は、動物の命を守ることだけでなく、地域コミュニティの活性化まで幅広い活動になっている。更に、不必要な殺処分の減少や住民の方との信頼関係の構築につながるようにしていきたい。
- 情報を正確にわかりやすく伝えることは本当に大切である。チェルノブイリの原発事故後、一番の被害は、外に出ないことによる運動不足、汚染を懸念した野菜の摂取不足、その他諸々の精神的ストレスであった。
- 中央卸売市場第二市場では、獣医師が肉の安全性を徹底的にチェックしていることを市民の方に話すと、大変驚かれると同時に安心される。
- 食の安全確保に当たっては、今後も専門性を十分に発揮していただき、全力で取り組んで欲しい。そのためにも、市民の皆さんへの正確、迅速でわかりやすい情報発信をお願いします。
- 感染症への不安に対しては、常に迅速に対応していただき、心強く感じている。京都産業大学と学術協定を結び進めている共同研究（※）にも一層力を入れて欲しい。

※ ヒトインフルエンザと鳥インフルエンザ両者に係る調査研究や
食肉、乳製品等食品の衛生及び安心・安全の確保に関する調査研究など